

# ごしょはちまんぐう 五所八幡宮

古賀市大字青柳 1687 番地

市内随一の大社で、境内にはクスノキやカシノキの大木が繁りその雰囲気を漂わせています。

ここはたびたびの兵火で建物や記録が焼失したためその創立沿革ははっきりしませんが、青柳郷が筥崎宮の荘園となる嘉禎<sup>かてい</sup>3年(1237)以前と考えられます。大般若波羅密多経<sup>だいほんじゃはらみたくきょう</sup>や棟札<sup>むなふだ</sup>などもそれを裏付けるものと思われれます。

また戦国争乱の頃の戸次道雪<sup>べつきどうせつ</sup>や江戸時代の黒田家の尊崇もあつかったようです。



## 祭神

応神天皇<sup>おうじんてんのう</sup>・神功皇后<sup>じんぐうこうこう</sup>・玉依姫命<sup>たまよりひめのみこと</sup>・保食神<sup>うけもちのかみ</sup>・墨江三前神<sup>すみえのみまえのかみ</sup>

## 縁起

大般若波羅密多経や棟札などの記録により、もとは若宮八幡宮又は若八幡宮と称し、祭神も少なかったようです。

## 氏子

青柳<sup>あおやなぎ</sup>・小竹<sup>おだけ</sup>・青柳町の産土神<sup>うぶすながみ</sup>でしたが、今は青柳と青柳町になっています。



屯宮





## 大般若波羅密多經

大般若波羅密多經は、<sup>おうえい</sup>応永年間（1394～1427）に全国60余州の信徒600人が1人1巻を書写して600巻を五所八幡宮（当時は若宮八幡宮又は若八幡宮）に寄進されたものです。その後の戦乱により<sup>きょうもん</sup>経文の存在は不明でしたが、大正15年（1926）9月佐賀県藤津郡西嬉野村で発見されました。五所八幡宮に寄進されたものがいかにして嬉野村に移ったかは未だはっきりしません。長い年月の経過とともに経文の損傷も激しく、現存している11巻の内5巻が昭和34年（1959）2月五所八幡宮に献納され、現在保管されています。



## 棟札

現存する9枚の棟札の中に<sup>めいおう</sup>明応2年（1493）のものがありこれは九州最古のものとされています。また<sup>てんしょう</sup>天正11年（1583）の戸次道雪大檀那の棟札には<sup>がんじょう じじゅうしよくさんしん じけい</sup>願成寺住職三晋字珪の名があり、同寺と当社を物語っています。



## 絵馬

筑前藩主<sup>くろだなりひろ</sup>黒田斉博の寄進によるものと伝えられる<sup>こうらいだか</sup>高麗鷹を描いた絵馬をはじめ、陶土で原形を作り、素焼きにして板面をとりつけ、これに彩色を施して仕上げた立体感のある華麗な絵馬など数多くの絵馬が奉納されています。



鷹図

天保2（1831）年  
（高麗鷹）

神功皇后武内宿禰図

元治元（1864）年  
（陶画絵馬）



## おひの水



本宮から500m西へ<sup>たけごしやま</sup>岳越山の麓の寺浦にあって、古くから御神井として尊ばれ御供井とされていました。またいかなる干ばつにも減水することもなかったので、<sup>あまごい</sup>雨乞の神事も行われていました。